



2023 年度第 2 四半期 決算リリース

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ、2023 年度第 2 四半期決算を発表

以下に示す金額はすべてカナダドル建てで、特に断りのない限り、国際会計基準第 34 号「中間財務報告」に従って提出された財務諸表に基づいています。なお、便宜上記載されている日本円への換算は、1 カナダドル=102.44 円（2023 年 5 月 26 日現在の株式会社三菱 UFJ 銀行の対顧客電信直物売買相場仲値）により計算されています。2023 年度第 2 四半期の株主報告書および補足財務情報につきましては、当行のウェブサイトをご覧ください：<http://www.rbc.com/investorrelations>。

純利益 36 億ドル 前年比 14%減	希薄化後 EPS¹ 2.58 ドル 前年比 13%減	合計 PCL² 6 億ドル 貸出債権の PCL 比率 ³ は 前期比 5bps ⁴ 上昇	ROE⁵ 14.4% 前年の 18.4%から低下	CET1 比率⁶ 13.7% 規制上の所要水準を 大きく上回る
調整後純利益⁷ 38 億ドル 前年比 13%減	調整後希薄化後 EPS⁷ 2.65 ドル 前年比 11%減	合計 ACL⁸ 48 億ドル 貸出債権の ACL 比率 ⁹ は 前期比 3bps 上昇	調整後 ROE⁷ 14.9% 前年の 18.6%から低下	調整後 LCR¹⁰ 135% 前四半期の 130%から 上昇

【トロント、2023 年 5 月 25 日】ロイヤル・バンク・オブ・カナダ¹¹（トロント、ニューヨーク両証券取引所のティッカーはRY）は本日、2023 年度第 2 四半期（2023 年 2 月 1 日～2023 年 4 月 30 日）の純利益が前年同期の実績から 6.04 億ドル（約 619 億円）、率にして 14% 減少し、36 億ドル（約 3,688 億円）になったと発表しました。希薄化後 EPS は 2.58 ドルで、この間に 13%減りました。調整後純利益⁷は 38 億ドル、調整後 EPS⁷は 2.65 ドルと、前年同期に比べて 13%、11%それぞれ減少しました。

当四半期の業績は貸倒引当金繰入額の増加を反映しており、貸出債権の PCL 比率は 30bps となりました。信用の質やマクロ経済に関する当行の見通しが新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック（世界的大流行）に起因する不確実性の低下を反映した前年の発表と比べて好ましからざる方向に変化したことを主因に、当四半期に正常債権引当金の繰り入れが発生したことなどが響きました。当四半期はまた、不良債権引当金の繰り入れ拡大も映しました。

貸倒引当金繰入前・税引前利益⁷は 50 億ドルと、前年同期の実績から 0.54 億ドル、率にして 1%増加しました。金利上昇とカナダ銀行事業やウェルスマネジメント部門での融資の高い伸びを牽引役に純金利収入が増えたことを主に反映しました。キャピタルマーケット部門のコーポレート&インベストメント・バンキング事業が増収となったことも増益に寄与しました。これらの要因は、人員拡大や株式報酬などに起因する人件費の増加を中心とした経費増によって一部打ち消されました。専門家報酬（テクノロジー投資を含む）や顧客主導の高い成長を支える裁量的費用の増加も経費拡大につながりました。

当行は本日、1 株あたり 1.35 ドルの四半期配当金を発表し、0.03 ドル、率にして 2%の増配としました。

CET1 比率 13.7%の堅固な自己資本基盤を備えた当行のバランスシートの健全性が、業量の堅調な拡大と 18 億ドルの普通株式配当を支えました。平均 LCR は 135%と良好です。また、慎重な ACL 比率を伴った経営を継続しており、当四半期は 1.73 億ドルの正常債権引当金の繰り入れがここに含まれました。

前四半期との比較では、純利益は前四半期に生じたカナダ復興配当（CRD）および他の税金関連調整の影響を反映し、14%増加しました。調整後純利益⁷は、キャピタルマーケット、パーソナル&コマーシャル・バンキング、ウェルスマネジメント、およびインシュランス各部門の減益に伴い、13%減少しました。

¹ 1 株利益（EPS）。

² 貸倒引当金繰入額（PCL）。

³ 貸出債権の PCL 比率は、貸出債権の PCL の平均純貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

⁴ ベーシスポイント（bps）。

⁵ 自己資本利益率（ROE）。追加の情報につきましては、本決算リリース 3～4 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

⁶ この比率は、金融機関監督庁（OSFI）のパーゼル 3 自己資本比率規制ガイドラインに従い、普通株式等 Tier 1（CET1）をリスク加重資産で除して計算されています。

⁷ これは GAAP に基づかない財務指標です。会計調整を含む追加の情報につきましては、本決算リリース 3～4 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

⁸ 貸倒引当金（ACL）。

⁹ 貸出債権の ACL 比率は、貸出債権の ACL の総貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

¹⁰ 流動性カパレレッジ比率（LCR）。

¹¹ “we”, “us”, “our”（日本語では「当行」）、あるいは“RBC”という言葉は、場合に応じて、ロイヤル・バンク・オブ・カナダとその子会社を意味します。

「第2四半期の決算が示すように、RBCは、顧客のために正しいことを行い、持続可能かつ長期的な価値を顧客や地域社会、株主に提供することについて、決して妥協しません。焦点を絞った成長戦略、慎重なリスク・自己資本管理、および多角的な事業構成は、複雑なマクロ環境における当行の強さと安定性を実証しています。当行はテクノロジーや優秀な人材への戦略的投資の恩恵を引き続き享受しており、顧客のニーズを支えながら、経費の伸びを抑え、業務効率を高めることができると自負しています。」

——デーブ・マックイ、RBC 頭取兼最高経営責任者

2023 年度第 2 四半期と 2022 年度第 2 四半期の比較

財務報告ベース：

・ 純利益 36.49億ドル	↓ 14%
・ 希薄化後EPS 2.58ドル	↓ 13%
・ ROE 14.4%	↓ 400 bps
・ CET1比率 13.7%	↑ 50 bps

調整後ベース⁷：

・ 純利益 37.58億ドル	↓ 13%
・ 希薄化後EPS 2.65ドル	↓ 11%
・ ROE 14.9%	↓ 370bps

2023 年度第 2 四半期と 2023 年度第 1 四半期の比較

・ 純利益 36.49億ドル	↑ 14%
・ 希薄化後EPS 2.58ドル	↑ 13%
・ ROE 14.4%	↑ 180 bps
・ CET1比率 13.7%	↑ 100 bps

・ 純利益 37.58億ドル	↓ 13%
・ 希薄化後EPS 2.65ドル	↓ 15%
・ ROE 14.9%	↓ 220 bps

2023 年度 初来と 2022 年度 初来の比較

・ 純利益 68.63億ドル	↓ 18%
・ 希薄化後EPS 4.86ドル	↓ 16%
・ ROE 13.5%	↓ 440 bps

・ 純利益 81.01億ドル	↓ 4%
・ 希薄化後EPS 5.76ドル	↓ 2%
・ ROE 16.0%	↓ 210 bps

パーソナル&コマーシャル・バンキング部門

純利益は 19.15 億ドルと、前年同期の実績から 3.19 億ドル、率にして 14%減少しました。正常債権引当金で前四半期の戻し入れから一転して当四半期は繰り入れが発生したことなどを反映し、PCL が拡大したことが主な要因でした。フルタイム従業員の増加やデジタル化などに伴う人件費とテクノロジー関連費用の伸び、およびカナダの法人税率の 1.5%引き上げを反映した実効税率の上昇も、減益につながりました。これらの要因は、利鞘の改善を映した純金利収入の拡大や、カナダ銀行事業の預金と貸し出しの平均 8%の伸びによって一部相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、2.11 億ドル、率にして 10%減りました。前四半期より 3 日少なかった当四半期の営業日数や、商品構成の見直しなどを反映した利鞘の縮小に伴い、純金利収入が減少したことが主因でした。カードサービス業務の減収も響きました。

ウェルスマネジメント部門

純利益は 7.42 億ドルで、前年同期の実績から 0.67 億ドル、率にして 8%減少しました。好ましからざる市場環境という逆風による手数料ベースの顧客の平均資産の減少や、前年同期に非中核関連会社の売却益を計上した反動などが背景にありました。PCL の拡大および専門家報酬と人件費の増加も減益要因となりました。これらの要因は金利上昇を反映した利鞘の改善を原動力とする純金利収入の増加によって減殺され、利鞘の改善はスウィープ預金からの収入も押し上げました。

前四半期との比較では、純利益は、1.06 億ドル、率にして 13%増加しました。資金調達コストの上昇と商品構成見直しの影響が金利上昇の恩恵を打ち消して余りある打撃を与え、純金利収入が減少したことが主な要因でした。取引収入の縮小も減益につながりました。

インシュアランス部門

純利益は資本調達コストの上昇を主因に、1.39 億ドルと前年同期の実績から 0.67 億ドル、率にして 33%減少しました。

前四半期に比べると、純利益は、0.09 億ドル、率にして 6%減りました。当四半期の不利な数理計算上の調整などが原因でした。

キャピタルマーケット部門

純利益は 9.39 億ドルと前年同期の実績から 0.82 億ドル、率にして 10%増加しました。利益構成の変化を反映した実効税率の低下や、コーポレート&インベストメント・バンキング事業の増収、為替換算調整の影響が増益を主導しました。これらの要因は PCL の拡大やグローバルマーケット事業の減収によって部分的に相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、2.84 億ドル、率にして 23%減少しました。株式トレーディング収入が全地域で落ち込んだうえ、債券トレーディング収入と M&A（企業の合併・買収）活動が大半の地域で減ったことなどが足を引っ張りました。これらの要因は減益を受けた報酬の減少によって減殺されました。

自己資本比率、流動性、および信用の質

自己資本比率——2023年4月30日時点では、CET1比率は13.7%と前四半期の水準から100bps上昇しました。バーゼル3による改革や、正味内部資本生成、DRIP（株主が保有株式の配当金を現金で受け取らず自動的に再投資する仕組み）の下での株式発行の好影響を主に反映しましたが、こうした要因は事業成長に起因するリスク加重資産（RWA）の拡大によってある程度打ち消されました。

流動性——2023年4月30日に終了した四半期は、平均流動性カバレッジ比率（LCR）が135%で、金額に換算するとおよそ1,020億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は130%で、約880億ドルの余剰でした。LCRの水準が前四半期との比較で上昇したのは、預金や平均ホールセール資金調達残高の増加が主な要因でしたが、融資の伸びによって一部相殺されました。

2023年4月30日時点の安定調達比率（NSFR）は113%で、金額に換算するとおよそ1,100億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は112%で、1,000億ドル程度の余剰でした。NSFRが前四半期に比べて上昇したのは、預金や安定資金調達の増加が主因でしたが、融資の伸びによって減殺されました。

信用の質

2023年度第2四半期と2022年度第2四半期の比較

合計PCLは前年同期の（3.42）億ドルに対して6億ドルでした。パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタルマーケットツ両部門の貸倒引当金が前年同期の戻し入れから当四半期は繰り入れに転じたことなどを反映しました。貸出債権のPCL比率は48bps上昇し、30bpsとなりました。不良債権のPCL比率は12bps上昇の21bpsでした。

正常債権のPCLは前年同期の（5.04）億ドルに対して1.73億ドルでした。信用の質やマクロ経済に関する当行の見通しの好ましからざる変更を主因に当四半期は繰り入れが発生したことなどが背景にありました。対照的に、前年同期は、COVID-19のパンデミックに伴う不確実性が後退したことを反映し、カナダ銀行事業の債権やキャピタルマーケットツ部門を中心に戻し入れが生じました。

不良債権のPCLは、カナダ銀行事業の債権で繰り入れが増えたほか、キャピタルマーケットツ部門でも一般消費財や不動産および関連業界など複数のセクター向けの増加が見られたことを主因に、2.67億ドル拡大しました。

2023年度第2四半期と2023年度第1四半期の比較

合計PCLは前四半期の実績から0.68億ドル、率にして13%拡大しました。キャピタルマーケットツ、パーソナル&コマーシャル・バンキング両部門における繰り入れ増加が主な要因でしたが、ウェルスマネジメント部門での繰り入れ減少によって一部打ち消されました。貸出債権のPCL比率は5bps、不良債権のPCL比率は4bpsそれぞれ上昇しました。

正常債権のPCLは、キャピタルマーケットツ部門における繰り入れの増加をウェルスマネジメント、パーソナル&コマーシャル・バンキング両部門での繰り入れの減少が相殺したため、1.73億ドルと横ばいでした。

不良債権のPCLは、0.84億ドル、率にして24%拡大しました。カナダ銀行事業の債権で繰り入れが増えたうえ、キャピタルマーケットツ部門でも一般消費財や不動産および関連業界など複数のセクター向けの増加が見られたことなどが背景にありました。

主要な業績指標と非GAAP財務指標

業績指標

当行の連結事業および各事業セグメントの業績は、純利益やROEなど複数の財務指標を使って測定、評価しています。ROEを含む一部の財務指標は、一般に公正妥当と認められる会計原則（GAAP）の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

非GAAP財務指標

一部の非GAAP財務指標（非GAAP財務比率を含む）は、当行の継続的な経営成績をより色濃く反映し、経営陣の業績判断に対する読者の理解を促進するものと考えます。これらの指標は、2023年4月30日までの3カ月間、6カ月間の財務実績と前年の同じ期間や2023年1月31日までの3カ月間とを比較しやすくします。非GAAP指標は、GAAPの下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

以下は当行が経営成績の評価で使う非GAAP指標についての説明です。

貸倒引当金繰入前・税引前利益

貸倒引当金繰入前・税引前利益は、法人所得税（2023年度第2四半期：7.71億ドル、2022年度第2四半期：10.55億ドル）とPCL（2023年度第2四半期：6億ドル、2022年度第2四半期：（3.42）億ドル）を差し引く前の利益（2023年度第2四半期：36.49億ドル、2022年度第2四半期：42.53億ドル）として計算されています。貸倒引当金繰入前・税引前利益を用い、当行は持続的な利益成長を創出する自身の能力を、信用サイクルの循環的な性質に左右される貸倒損失を除いて評価しています。

調整後ベースの業績

以下で述べる特定項目の影響や買収関連無形資産の償却を除いた調整後ベースの業績と一部の財務指標は、それ以前の期間との比較をやすくし、根底にある事業のトレンドを読者がよりの確に評価することを可能にするものと考えます。2023年4月30日までの3カ月間と6カ月間、および2023年1月31日までの3カ月間は、次の特定項目が当行の業績に影響を与えました：

- CRD および他の税金関連調整：CRD、そして2022年度に繰延税金調整を除いて適用されたカナダの法人税率の1.5%引き上げの影響を反映しています。これらはカナダ政府の2022年予算で発表され、2023年第1四半期に実施されました。
- 予定されるHSBCバンク・カナダ（HSBCカナダ）買収に関連した取引および統合費用。

次の表は、調整後ベースの業績を財務報告ベースの業績と照合し、提示された調整項目の計算を説明したものです。以下に示す調整後ベースの業績と財務指標は非GAAP指標です。

連結業績（財務報告ベースと調整後ベース）

(1株あたり金額、実数、および百分率以外の単位は 百万カナダドル)	下記の日付時点もしくは 下記の日付までの3カ月間			下記の日付時点もしくは 下記の日付までの6カ月間	
	2023年 4月30日	2023年 1月31日	2022年 4月30日(1)	2023年 4月30日	2022年 4月30日(1)
総収入	\$ 13,520	\$ 15,094	\$ 11,220	\$ 28,614	\$ 24,286
PCL	600	532	(342)	1,132	(237)
非金利費用	7,494	7,675	6,434	15,169	13,014
税引前利益	4,420	5,342	5,308	9,762	10,692
法人所得税	771	2,128	1,055	2,899	2,344
純利益	\$ 3,649	\$ 3,214	\$ 4,253	\$ 6,863	\$ 8,348
普通株主に帰属する純利益	\$ 3,581	\$ 3,168	\$ 4,182	\$ 6,749	\$ 8,221
平均普通株式数 (千株)	1,388,388	1,382,754	1,409,702	1,385,525	1,415,855
基本1株利益 (ドル)	\$ 2.58	\$ 2.29	\$ 2.97	\$ 4.87	\$ 5.81
平均希薄化後普通株式数 (千株)	1,390,149	1,384,536	1,412,552	1,387,295	1,418,676
希薄化後1株利益 (ドル)	\$ 2.58	\$ 2.29	\$ 2.96	\$ 4.86	\$ 5.80
ROE (2)	14.4%	12.6%	18.4%	13.5%	17.9%
実効法人所得税率	17.4%	39.8%	19.9%	29.7%	21.9%
純利益 (税引前) に影響を与える調整項目合計	\$ 138	\$ 97	\$ 63	\$ 235	\$ 126
特定項目: HSBCカナダの取引および統合費用 (3)	56	11	-	67	-
買収関連無形資産の償却 (4)	82	86	63	168	126
純利益に影響を与える調整項目の法人所得税合計	\$ 29	\$ (1,032)	\$ 17	\$ (1,003)	\$ 33
特定項目: CRD および他の税金関連調整 (3), (5)	-	(1,050)	-	(1,050)	-
特定項目: HSBCカナダの取引および統合費用 (3)	13	3	-	16	-
買収関連無形資産の償却 (4)	16	15	17	31	33
調整後ベースの業績 (6)					
税引前所得 - 調整後	4,558	5,439	5,371	9,997	10,818
法人所得税 - 調整後	800	1,096	1,072	1,896	2,377
純利益 - 調整後	\$ 3,758	\$ 4,343	\$ 4,299	\$ 8,101	\$ 8,441
普通株主に帰属する純利益 - 調整後	\$ 3,690	\$ 4,297	\$ 4,228	\$ 7,987	\$ 8,314
平均普通株式数 (千株)	1,388,388	1,382,754	1,409,702	1,385,525	1,415,855
基本1株利益 (ドル) - 調整後	\$ 2.66	\$ 3.11	\$ 3.00	\$ 5.76	\$ 5.87
平均希薄化後普通株式数 (千株)	1,390,149	1,384,536	1,412,552	1,387,295	1,418,676
希薄化後1株利益 (ドル) - 調整後	\$ 2.65	\$ 3.10	\$ 2.99	\$ 5.76	\$ 5.86
ROE - 調整後	14.9%	17.1%	18.6%	16.0%	18.1%
調整後実効法人所得税率	17.6%	20.2%	20.0%	19.0%	22.0%

(1) 2022年4月30日までの3カ月間、また2022年4月30日までの6カ月間は、特定項目がありませんでした。

(2) ROEは四捨五入する前の平均普通株主資本の実際の残高に基づいています。

(3) これらの金額はコーポレートサポート部門で認識されています。

(4) 買収関連無形資産の償却（ソフトウェアの償却を除く）、並びに、のれんの減損が及ぼす影響を表しています。

(5) CRD および他の税金関連調整は、その他の包括利益で認識されている2億ドルを含んでいません。

(6) 2023年度第2四半期より、当行は非GAAP財務指標と非GAAP財務比率の調整項目にHSBCカナダの取引および統合費用と買収関連無形資産の償却を含めました。このため、比較可能な調整後ベースの業績は、非GAAP指標を巡る当行の表示基準に適合させるため、以前に提示されたものから修正されています。

ROE や他の主要な業績指標と非 GAAP 財務指標に関する追加の情報は、当行の2023年度第2四半期株主報告書の「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先： コンプライアンス部 鈴木

電話 03 (4577) 7166